

# 日風堂周

高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ

第64号 2008年7月1日

## 弥生時代の武器形祭器が

## 使われる祭り

高知県の中西部、高岡郡四万十町（旧窪川町）の藤居山南を西南流する四万十川右岸の宮内に高岡神社が鎮座しています。社殿が五つあるために五社ともいわれ、地元では五社さんと親しみを込めて呼んでいます。

この高岡神社の秋の祭りが、一月一五日に行われます。この御神幸の時に弥生時代に祭器として用いられていた銅矛五本が使われます。いったいこの銅矛はいつ頃から祭りに登場したのでしょうか。



祭りに用いられる銅矛



祭りに用いられる銅矛

藩政時代の御神幸にすでに銅矛が用いられています。すると古くより高岡神社に銅矛が存在していたことが考えられます。文化二年（一八一五）に成立した『南路志蘭國之部』下巻の「仁井田之社鎮座記」によると、かつて作屋村の銅矛を用いて祭礼を執り行っていたが、いつの間にか不明となり、その後、明暦三年（一六五七）に神ノ崎村（神西村とも）の新田開発のため井溝を根々崎村の金力淵まで掘ったところ現在用いられている五本の銅矛が



五社の神輿の側に立てかけられた銅矛

見つかったと記録されています。見つかった銅矛は、以前に用いていた銅矛が再度埋められたものであると考え、再び五社の神宝として奉納されたと考えられます。この銅矛が、現在でも高岡神社の祭りに登場するのです。長年祭りに用いられたため破損していますが、鍛冶により鉄片できちんと修理がなされています。

今なお、神社の祭りに弥生時代の武器形祭器が生き続けていることは、全国的にも非常に珍しいことです。

（岡本）

# 「土佐発掘物語Ⅱ ― 謎！弥生時代の青銅器 発見と発掘 ―」によせて

## 銅矛の埋納遺跡

平成20年7月18日(金)～8月31日(日)

― 一 ―

高知県内において確認されている弥生時代の青銅器は、銅剣一〇本・銅戈七本・銅矛五五本・銅鐸一一個・銅鐸の舌一点・銅鏡破片(小型仿製鏡の破片を含む)九点・銅釧破片一点です。これらのうち銅鏡・銅釧を除く青銅器は、偶然に発見されたものが多く、その発見は中・近世に溯るものもありま

す。また、近年の行政発掘調査では、銅矛の埋納遺構も見つかっています。なお、銅鏡破片や銅釧破片は、発掘調査で出土したものです。銅戈は七本のうち一本は破片で、高知市春野町西分増井遺跡から見つかっています。また同遺跡からは、銅矛の破片(細片を含む)九点、銅鐸片一点も出土しています。銅矛は分析の結果二個体とされ二本とし、そして銅鐸も一個体(一個)として先の数に含めています。

に伴う発掘調査で出土した土佐市天崎遺跡の銅矛四本があります。天崎遺跡の銅矛は、中世に再埋納されたものと考えられています。発掘調査で出土した青銅器は、平成三年(一九九一)以降の行政発掘調査で出土したものです。

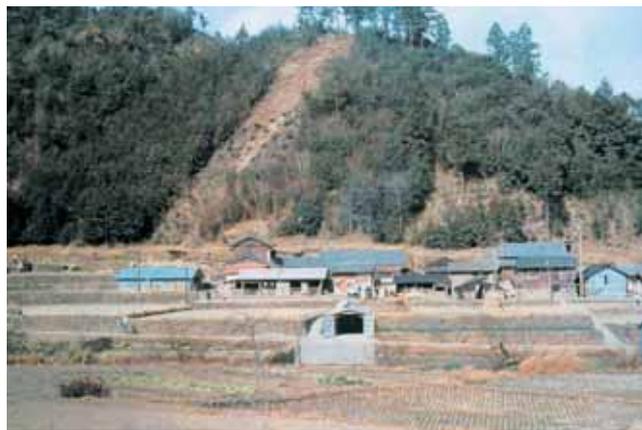
二

高知県内の青銅器の中で一番多く発見されているのが銅矛です。これらの

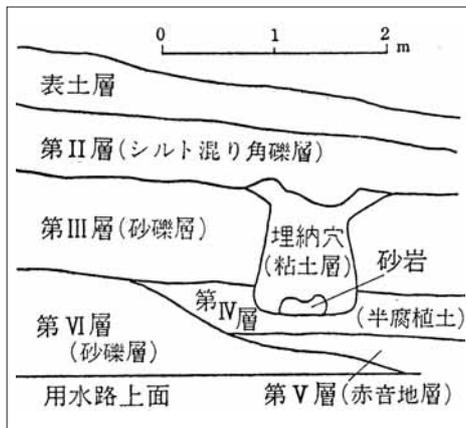
銅矛の中で埋納状態がわかっている遺跡があります。一つは、銅矛が県内で一番多く分布している高南台地、高岡



西ノ川口遺跡の埋納遺構 (昭和45年)



四万十町西ノ川口遺跡遠景 (昭和45年)



西ノ川口遺跡銅矛出土地点断面図 (『歴史と地理』243号 1975年より)

郡四万十町(旧窪川町)の四万十川流域の西ノ川口遺跡です。

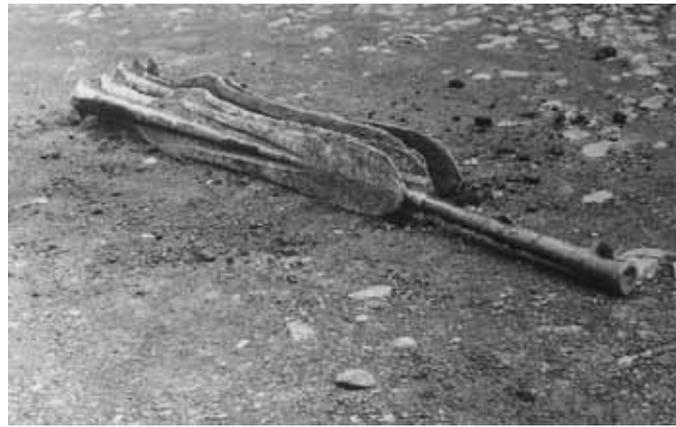
昭和一〇年(一九三五)に四万十町作屋字西ノ川口で水路(作屋溝)を掘る時に偶然五本の銅矛が発見されたのです。この銅矛の出土地点は、昭和四五年(一九七〇)に日本考古学協会青銅部会(部会長三木文雄博士)により再調査されています。この遺跡で残存していた埋納遺構は、径六二cm、残存底面は径九二cm、深さは残存部中央で一〇四cmありました。さらに埋納遺構の上部には張り出し部があったと報告されています。

西ノ川口遺跡の標高は二三二・九mで、高南台地に位置し、現西ノ川谷を流れる西ノ川川の水面からの比高差は約一mです。

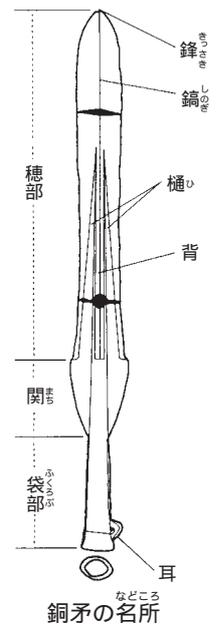
五本の銅矛は、広形銅矛が四本、中広形銅矛が一本で、広形銅矛四本は袋部を一系列に揃え片方の刃を上に向けて、もう一方の刃は下に向けていました。そして、中広形銅矛一本は、広形銅矛の間に鋒から関部までをおさめ、袋部は広形銅矛と反対になるように埋納されていました。中広形銅矛も同様に刃部を上下に置いて置かれています。五本の銅矛全部が耳を上にして置かれています。次頁に掲載した白黒写真は当時銅矛の埋納状態を復原したものです。二つ目の遺跡は、南国市十市の遅倉



西ノ川口遺跡出土の銅矛



西ノ川口遺跡銅矛埋納状態の復原



銅矛の長さは八三cmあり、緑錆に覆われ、発見時に半分に折れていました。埋納遺構は既に約半分が失われていましたが、残存埋納遺構は底径一〇三cm、深さ五八〜八一cm、上部の径が七一・七cmでした。埋納遺構の上部には、径約一m、高さ一五cmほどの小さなマウンド状の遺構がありました。

埋納遺構が残ったのは、発見者の鍬が銅矛の鋒部分にあたり、その後引き抜く形で取り出したため、土層を確認すると銅矛

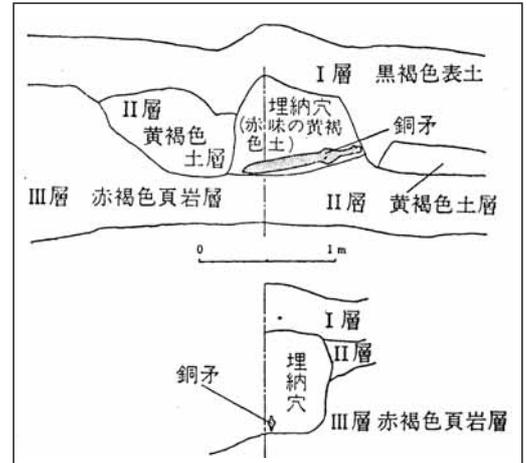
遺跡です。遅倉遺跡は、昭和四九年（一九七四）に発見された遺跡です。ここからは、中広形銅矛（昭和五九年に高知県保護有形文化財に指定）が一本出土しています。発見者が、ヤマイモ掘りに出かけ偶然発見した銅矛です。発見された翌年に、残存していた埋納遺構の発掘調査が行われています。



遅倉遺跡出土の銅矛



南国市遅倉遺跡の埋納遺構と銅矛埋納状態の復原



南国市遅倉遺跡の埋納遺構土層断面図  
（『歴史と地理』243号 1975年より）

埋納された中広形銅矛は、鋒を北東に向け、袋部は南西に向けて納められ、刃部を上に向け、もう一方の刃部は下に向け、耳は上に向けて置かれていたと考えられます。

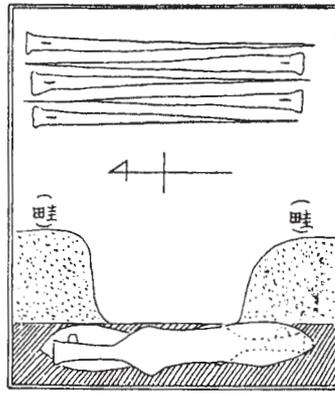
四万十町西ノ川口遺跡や南国市西市遅倉遺跡の埋納遺構は、銅矛を埋納するには、やや大きな埋納坑であるという指摘もあり、何度か出し入れした格納庫的な使用も考えられます。

南国市田村カリヤの水田からは、明治三二年（一八九九）に五本の銅矛が出土しています。畦の間から金属が顔を出していたことから発見されましたが、発見者は大変驚いたことでしょう。

の緑錆が付着しており、埋納状況を復原することが可能でした。この遺跡は、標高四五・二mの南国市西市錦城字遅倉六〇三六 一にあり、砂丘から入り込んだ低湿地に続く谷の入口近く、小高い台地傾斜面に位置しています。当時は、梨の段々畑で畑にする際に遺構は一部切り取られたものと考えられます。かかる状況から埋納遺構の残存状況は、二分の一程度でした。段々畑は小さな崖状をなしていましたが、現在は宅地化され遺跡は残念な事に消滅しています。

埋納遺構は、上部の口が小さく底部が大きい袋状をした小さな竪穴状の遺構です。

この銅矛は一本が現在当館に所蔵され、一本は田村の伊都多神社に所蔵され、残る三本は個人蔵となっているようです。発見者の話によると広形銅矛は、袋部と鋒を交互に並べて埋納され、耳を上にしていたといわれています。推定すると左記のような図になると考えられます。



田村カリヤ出土の銅矛埋納状態復原図  
(『高知の研究』1 1983年より)

三  
平成八年(一九九六)七月から平成一三年二月まで行われた高知空港再拡張整備に伴う埋蔵文化財発掘調査で、南国市田村遺跡群からは、銅矛が二本出土しています。南国市田村遺跡群と周辺部からは青銅器がそれ以前に見られています。田村正善からは明治一五・一六年(一八八二・八三)に銅鐸が一個出土しています。また田村遺跡群の西見当り地点からは、銅鐸の舌が出土しています。銅矛は先のカリヤ出土の銅矛五本があります。銅鏡は田村遺跡群溝跡(Loc. 34B・SP1)と

同遺跡群住居跡(Loc. 45・ST102)から破砕鏡が出土しています。拡張に伴う田村遺跡群の発掘調査(E1区・ST102)では住居跡から鏡片一点、同遺跡の削平された住居跡(B3区・ST309)の土坑からは有鉤銅剣片一点が発見されています。

発掘された銅矛は、田村遺跡群の古代と推定される流路(E7区・SR703)から、鋒から一〇cmほどの広形銅矛破片が出土していますが、流れ込んできたものと考えられています。田村遺跡群の銅矛埋納遺構(I2区・SK2314)からは、埋納された中広形銅矛が一本出土しています。全長は八三cmで、保存状況は良好ではありませんでした。正式な発掘調査で銅矛の埋納遺構が調査



銅矛の破片 田村遺跡群  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター蔵

された初例です。埋納坑は、大溝に挟まれた部分で発見され、重機による黒褐色土の除去により約3/4が壊されていますが、長軸の東西南東側半分は、幅六〇cm、深さ六〇cmの楕円形と

考えられます。銅矛をくるむような状態の精選された土が確認されており、容器状のものの存在が想定されています。銅矛は、耳を上にして鋒を東に向けています。なお、埋納坑から複数回取り出したような痕跡は認められていません。当初から一本だけ埋納したと考えられます。



銅矛埋納状況  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター提供

昨今、工事等で地理的な環境が大きく変化しています。青銅器は偶然に見られることが多い資料です。その発見の記録は集落の中で伝承されていますが、今日、聞き書き等で調査記録ができる最後の時期にきています。そのような調査記録や伝承を少しでも残すことが今回の企画展の目的のひとつでもあります。(岡本)

テーマ  
展示

出土品が語る岡豊城跡

岡豊城跡は四国を代表する戦国大名、長宗我部氏の居城跡で、当館が立地する南国市岡豊町八幡の岡豊山(標高九七七)に所在します。詰を中心とした主郭と二つの副郭で構成されています。昭和三〇年には県指定史跡となりました。当館の建設に伴い発掘調査と史跡整備が行われ、中世から近世への過渡期の城跡で、城郭の変遷を知ることが貴重であることがわかりました。今年五月に城跡の一層の保存を図る必要があることから国史跡に指定するよう答申がなされ、今後、指定される見通しです。



岡豊城跡詰出土「天正三年」銘瓦

今回の展示では、昭和六〇年以降の発掘調査で得られた成果と出土した遺物を中心に紹介し、岡豊城跡への理解を深めていただくために企画しました。(曾我)

高知女子大学文化学部バスハイク

高知県立高知女子大学では、全学部  
の一回生を対象として学生と教職員の  
交流を深めることを目的に恒例のバス  
ハイクが行われています。本年度は、  
当館を文化学部の学生さんと教職員の  
方々（計一〇七名）が、高知女子大学  
の創立記念日の四月二一日（月）にバ  
ス三台に分乗して訪れました。岡豊山  
に咲くツツジの花と鮮やかな新緑が新  
入生を迎えました。

午前九時からのオリエンテーション  
終了後に学芸員の説明を聞きながら常  
設展示を見学、ちよとど企画展「鯉  
カツオと土佐人」を開催中で、学生  
さん達には、土佐の鯉文化の一端を紹  
介することができました。お昼は、気  
合っ友だちと待望のお弁当の時間。

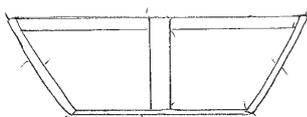
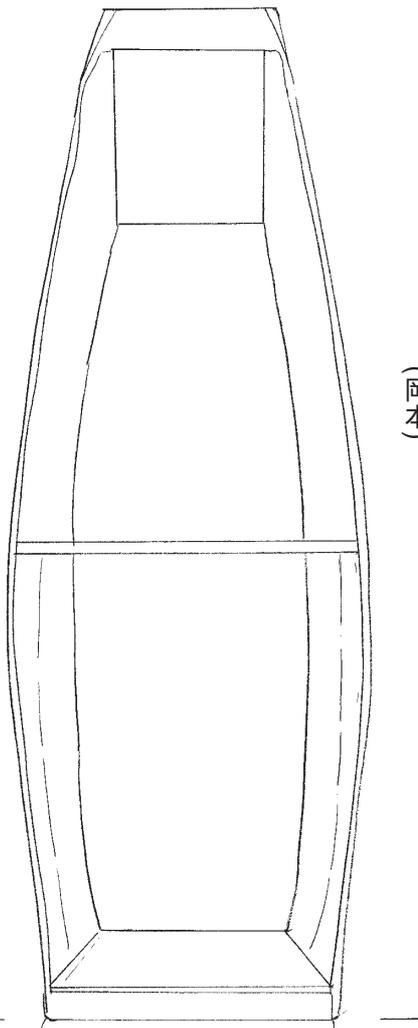
午後は、三班に分かれて体験の時間  
一班は、登録文化財の移築民家で、坂  
本正夫前館長から昔の暮らしについて  
のお話を聞きながら、竹筒で炊いたこ  
飯と、竹筒で焼いた卵焼きの開始。  
「竹でこ飯が炊けるんだ」と学生さん。  
二班は、古代の勾玉作りに挑戦、つま  
くできるかな。三班は、より高度な  
体験に挑戦、民具の実測と写真撮影。



田舟の実測中

対象資料は、唐箕と田舟です。試行錯  
誤して実測図がなんとか仕上がりました。  
勾玉作りにはカルチャーサポーター  
の方も参加してくれました。三つのプ  
ログラムを各班が午後四時三〇分まで  
楽しみました。館学連携の体験バスハ  
イクでした。この様子は、高知女子大  
のホームページにも掲載されています。

(岡本)



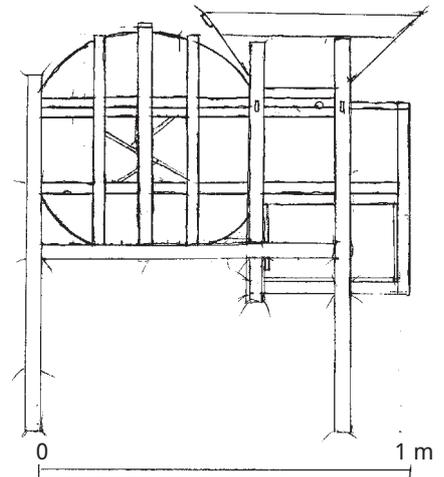
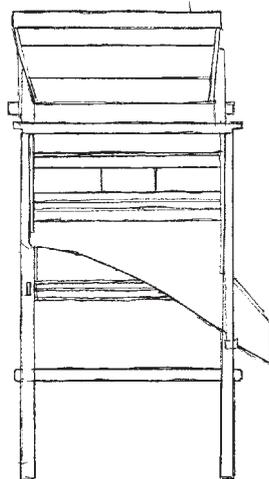
田舟実測図



唐箕に「商標」発見



唐箕の実測中



完成間近の唐箕実測図

考古

四万十市中村貝塚の写真

本年度の最初の企画展は、「鯉 カツオと土佐人」でした。日本人と魚介類とのつきあいは、意外と長いのです。日本人の魚介類の消費量は、世界第二位ともいわれています。日本人が魚介類を好むのは、地理的な環境と、縄文時代からの伝統であるといわれています。縄文時代の貝塚から出土する遺存体を分析すると現在私達が食している魚介類のほとんどがすでに食べられています。当時は各地で地域環境に適した漁労活動を展開していたと考えられています。また、フグまで食していたことを考えると、すでに毒に対する知識があったことがわかります。



当時の遺跡の貝層を示す貴重な白黒写真

高知県内にも縄文時代後期の宿毛市宿毛貝塚と四万十市には晩期中村貝塚があります。中村貝塚（旧中村市）からは、イノシシ・ニホンジカ等の獣骨、両生類のカエル等、貝類のハマグリやカキ等、そして魚類のクロダイ・カツオと思われる骨が出土しています。魚類の骨は、当時の人々の行動範囲が、魚類がみられる海域まで及んでいたことを示しています。中村貝塚が発見されたのは、昭和四〇年（一九六五）五月十七日のこと、発見者は考古学者の故木村剛朗さんとお兄さんでした。その時に発掘された苦勞して手に入れた石剣が当館の展示室にあります。（岡本）

歴史

吉田初三郎が描いた高知の鳥瞰図

吉田初三郎は、明治一七年（一八八四）に京都で生まれ、昭和三〇年（一九五五）に没しています。大正から昭和にかけて活躍した、すぐれた鳥瞰図作家として知られています。生涯において千点以上の鳥瞰図を作成し、「大正の広重」と自称していました。鳥瞰図とは、大空高く舞い上がった鳥の目から見るとこんなふうだろうと、建物や山などが立体的に書かれたもので、地図としての精度よりわかりやすさを重視した手書き風の楽しい地図です。見えないうところが見えてしまふ構図や色使いの美しさには、興味深いものがあります。当館所蔵資料の中に、吉田初三郎の数ある作品資料のひとつとして、土佐電鉄沿線の鳥瞰図があります。明治三六年（一九〇三）創業の土佐電気鉄道は大正一一年（一九二二）に土佐電気株式会社に改称、この間に次々と電気軌道を順調に延長しました。図は、昭和三年（一九二八）時の伊野 後免、高知駅前 棧橋間とその周辺を描いたものです。昭和初期当時の高知城下をかいま見ることが出来ます。現在、三階総合展示室（近・現代）コーナーに展示しています。（寺川）



土佐電鉄沿線名所大図絵

民俗

中国地方の神楽調査

高知県立歴史民俗資料館の調査対象は言うまでもなく高知県内の考古・歴史・民俗資料です。しかし、高知県内の資料を理解するには他県や国内（ある時は外国も！）のを知る必要があります。例えば民俗部門では三年前の平成一七年に「鬼」という企画展を行い、高知県内の神楽とあわせて愛媛県や徳島県・香川県の神楽も調査に行きました。すると、津野山神楽や池川神楽など高知県の西部の神楽は、愛媛県の神楽と大変よく似ていることがわかってきました。



鳥根県奥飯石神楽の「芝佐」山の神が登場し、「山王」や「大蛮」と関連する

このように、民俗文化は、県という単位で区切られるものではなく周辺地域との交流の中で生み出されているので、県外への目配りも欠かせません。神楽については、四国の様子はつかめてきたので、次は中国地方や九州地方の神楽との関係が気になります。そう思っていたところ、平成一八年度から鳥根県の古代文化センターが主催する中国地方の神楽の研究会に参加させて頂くことになりました。昨年は有名な佐陀神能などいくつかの神楽を見学しました。その中には四国の神楽の「山王」や「山探し」と関連する演目もあり、興味は尽きません。（梅野）

## 前田博史写真博

### 「桜博達(さくららはくら)2008」開花!

フォトコンテストの協賛企画として、コンテストの審査委員を務めていただいている自然写真家・前田博史氏のご協力を得て三月二〇日(木・祝)～三一日(日)に開催しました。

桜の季節に、前田さんの撮り貯めた桜の写真と、岡豊山の桜の両方を楽しんでいただき、またフォトコンテストの応募もお願いしようと、今年初めて企画展示室を会場として行いました。

今までも、前田さんにはフォトコンテストの作品募集促進のために、ミニギャラリーで小さな写真展は行っていたためでしたが、前田さんの写真の魅力をお見せするには、会場が狭すぎました。



展示風景



展示風景

今回は、前田さんの写真の魅力を十分に展示する空間を確保できて、前田さんも今回の展示に非常に力を入れていただき、普通の写真展とは違った展示方法で、来場者の方々に新鮮な感動を与えていただきました。

着物をイメージして、布へのプリントで和の和み(なごみ)を表現し、また見上げて咲く桜の写真を、檜の額装で和風に飾り趣向を凝らし、短期間の展示にもかかわらずマスコミが三回も取材に来るなど、大変な評判を呼びました。

来年の桜の季節には、またお願いをして、写真展を開催したいと思います。

(猪野)

## 岡豊山フォトコンテスト

### 「岡豊山の桜・四季」をテーマとした写真展

岡豊山を題材としたフォトコンテストも今年で三回目となり、また前田さんの写真展での宣伝効果もあり、今年は一四七点の作品応募がありました。

年々応募作品のレベルが上がっており、どの作品も撮影者の熱い思いが伝わってくる作品ばかりで、審査に非常に苦労しましたが、厳正なる審査の結果、最優秀賞には高知市在住の八井田様の作品「古民家春宵」が選ばれ、他に優秀二点、特別賞四点、奨励賞等三点を決定し、五月三日に表彰式を行いました。コンテストには九歳から八二歳までの老若男女の皆様にご応募いただき、厚く御礼を申し上げます。



入賞者記念撮影



最優秀作品「古民家春宵」

入賞作品三点はA1サイズの檜特製額装にて仕上げ、当館入口等で展示しております(展示後は入賞者に贈呈)。その他の応募作品のすべては六月二九日まで当館一階のフリースペースで展示しておりますので、ぜひご覧になって下さい。

来年も春の桜の季節に合わせて、岡豊山フォトコンテストを実施いたしますので、岡豊山の四季を撮影された貴方の作品のご応募を心よりお待ちしております。

(猪野)

## 新刊図書と増刷のご案内

### 企画展図録

#### 『鯉—カツオと土佐人—』



今春の企画展の解説図録。古文書や絵馬、一本釣りの漁具やカツオ節製造用具などをオールカラーで掲載し、土佐のカツオ文化を描き出す。「旅するカツオ」「カツオをとる」「カツオ節をつくる」「カツオをめぐる土佐の歴史」「カツオ文化」の5部構成。

A 4版 112頁  
定価 1200円 送料 290円

『長宗我部元親・盛親の栄光と挫折』  
『長宗我部盛親—土佐武士の名誉と意地—』  
各850円 1冊 送料290円 図録増刷しました。

### 新刊の紀要と収蔵資料目録

#### 『高知県立歴史民俗資料館研究紀要』第16号



土佐の出土銭貨 1 収蔵資料から  
.....岡本桂典  
寺石正路資料調査報告 杜山堂日記3  
.....野本 亮  
[調査報告]土佐市蓮池西宮八幡宮の秋祭り  
...岡林光穂・森田晶江・野々村昭美  
・永野明代・梅野光興  
A 4版 63頁 定価450円 送料290円

#### 『収蔵資料目録第13集 寺石正路関係資料目録Ⅱ (歴史分野) 一般書籍・和本編』

A 4版 122頁 定価750円 送料290円

### 既刊

岡豊城跡・移築民家関係パンフレット  
『岡豊城跡(史跡)旧味元家住宅主屋(登録有形文化財)』  
定価230円 送料140円

口座番号 01600-2-38806  
加入者名 高知県立歴史民俗資料館

## 臨時休館のお知らせ

資料・機器点検のため下記の期間を休館とします。

6月16日(月)～18日(水)

無料	観覧料	休館日	開館時間	〒783-0044	平成20年7月1日	岡豊風日(おこうふうじつ) 第64号
高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(一名)	450円・団体(20人以上)360円 〔企画展〕常設展示500円・団体(20人以上)400円	通常期(常設展)大人18才以上 臨時休館あり 年末年始12月27日、1月1日	午前9時～午後5時 FAX 088(862)2110	南国市岡豊町八幡1099-1	7月1日	

印刷・川北印刷株式会社  
http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/ rekimin/  
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

平成20年7月～平成20年9月の催し

### 企画展

## 土佐発掘物語Ⅱ

### - 謎! 弥生時代の青銅器 発見と発掘 -

平成20年7月18日(金)～8月31日(日)  
観覧料: 500円



土佐ではいつごろから弥生時代の青銅器に関心があったのだろうか。銅剣・銅戈・銅矛・銅鐸・銅鏡の発見と発掘の歴史についてみたいと思います。

江戸時代に発見した人たちが青銅器をみてどのように思ったのか。そんな心の中も少し覗いてみましょう。

### 講演会

電話かeメールでお申し込み下さい。先着100名

8月2日(土) 14:00～16:00

「青銅器発掘物語 - 出雲荒神谷から信濃柳沢、そして土佐の青銅器 -」

講師: 愛媛大学准教授 吉田 広氏

### れきみん講座

申込不要 観覧料要

8月9日(土) 14:00～15:30

「土佐考古学史」

学芸課長 岡本桂典

### 展示室トーク

申込不要 観覧料要

7月26日(土)・8月16日(土)

いずれも13:00～14:00

講師: 担当学芸員

### ワクワクワーク

電話かeメールでお申し込み下さい。定員各先着30名

8月3日(日) 10:00～12:00 「七夕飾り」

越知町桐見川の七夕飾りを作ります。

8月23日(土) 10:00～12:00 「水鉄砲を作ろう」

竹で水鉄砲作りに挑戦しよう。

8月24日(日) 10:00～12:00 「水鉄砲を作ろう」

竹で水鉄砲作りに挑戦しよう。

(申込多数のため本年度は2回開催します)

## 高知の食文化を味わう～食のこころ～

毎月第3土曜日(地産地消の日)に食文化や各地域の歴史に関する講座と郷土料理の食事会を開催します。

7月19日(土)11:00～ 宿毛市栄喜の浜の愛情ものがたり御膳

8月9日(土)11:00～ 中土佐町上ノ加江の炊きこみごはん、わかし汁他

(申込要(開催の前月10日より申込受付) 実費有 先着順) 詳細はお問い合わせ下さい。

9月以降はお問い合わせ下さい。

### 次回企画展の予告

## 絵葉書のなかの土佐 - 移ろいゆく時代の記憶 -

平成20年9月26日(金)～11月24日(祝・月)



土佐の闘犬

主に戦前の県内の街並み・生業・観光地などをテーマとした絵葉書を選び、土佐の近代化の軌跡を見ていきます。期間中、オリジナル切手シート(岡豊城跡・長宗我部氏)の販売も予定しています。